

2020年7月～12月 世界の主な水災害マップ

2021.3.3時点

2020年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、各国が避難所での感染防止対策などの対応に追われた。

ハリケーン「ローラ」(カリブ諸国、米国湾岸部) (8月)
 ハイチなどカリブ海諸国とルイジアナ州など米湾岸部に暴風雨被害が生じた。米国の死者の多くは非常用発電機使用による一酸化炭素中毒死だった。死者72人(米国32人、ハイチ31人、ドミニカ共和国9人)。

ハリケーン「エータ」と「イオタ」(中米) (11月)
 2週間で2つの強いハリケーンが中米を襲い、広範囲に洪水・土砂災害による被害をもたらした。エータ: 死者309人。イオタ: 死者102人。

死者 0～49人
死者 50～99人
死者 100～499人
死者 500～999人
死者 1000人～

※原則、先進国で死者数10人以上、途上国で50人以上の水災害を抽出

日本(九州ほか) (7月)
 「令和2年7月豪雨」は九州や中部地方に大きな被害をもたらした。熊本県の球磨川水系では氾濫・決壊が相次いだ。死者82人、行方不明者4人。

韓国 (8月)
 記録的な梅雨の大雨によりソウルを含む各地で洪水・地滑りが相次いだ。中部では梅雨期間が観測史上最長の54日間となった。死者38人、行方不明者12人。

ネパール(バグルン郡) (9月)
 モンスーンの豪雨により山あいのバグルン郡で鉄砲水・地滑りによる被害が発生。死者52人。

アフガニスタン (8月)
 各地で大雨による鉄砲水が発生。最も被害が大きかったパルワン州では住宅倒壊などで多数の住民が死亡した。死者200人。

暴風雨「アレックス」(イタリア、フランス) (10月)
 記録的大雨により、仏伊の国境地帯で洪水や地滑りが発生。家屋、道路、橋が押し流されるなど甚大な被害が生じた。死者15人、行方不明者21人。

スーダン(7月～10月)
 雨季の大雨により首都ハルツームを含む広い範囲で記録的な洪水被害が発生。青ナイル川が既往最高水位に達するなど、過去30年で最悪の洪水となった。死者155人。

インド南部 (10月)
 例年より長引いたモンスーンの終わりにムシ川およびビマ川流域が大雨に見舞われた。ハイデラバードでは百年に一度の豪雨となり多数の死者が出た。死者173人、行方不明者5人。

インド(ケララ州イドゥッキ県) (8月)
 モンスーンの集中豪雨によりイドゥッキ県山間部の茶農園で土石流が発生、山麓の従業員宿舎を襲った。死者62人、行方不明者8人。

ミャンマー (7月)
 モンスーンの豪雨によりカチン州パカンのヒスイ鉱山で地滑りが発生、採掘労働者らが泥流にのみ込まれた。同国史上最悪の鉱山事故となった。死者174人。

ベトナム中部(10月)
 モンスーンの大雨により洪水・地滑りが発生。今回の豪雨被害は過去数十年で最悪レベルと伝えられた。死者111人。

台風18号「モラヴェ」(ベトナム、フィリピン) (10月)
 モラヴェはフィリピンとベトナムに上陸。特にベトナムでは過去20年で最大級の嵐とされ、中部の洪水状況をさらに悪化させた。死者60人、行方不明者48人。

台風22号「ヴァムコー」(フィリピン) (10月)
 ヴァムコーはフィリピンで最も人口が多いルソン島を直撃。マニラ首都圏を含む各地で過去数年で最悪規模の洪水被害をもたらした。死者73人、行方不明者19人。

